

2025年 12月 3日更新

2026 年に専門医・認定医試験を受験予定の先生方へ ～第1報～

一般社団法人日本口腔顔面痛学会
専門医等認定委員会

2026年の専門医・認定医試験の日程と注意事項のご案内を致します。専門医・認定医試験を受験予定の先生方はよくお読みになってご準備ください。

申請期限：2026年2月末日

試験日時：2026年5月24日（日曜日）

試験会場：東京都内を予定（2月末までに詳細公表予定）

申請書類等は、「認定医・専門医制度」のバナーからダウンロード可能です。

注意事項

1) 筆記試験の出題範囲

筆記試験の出題範囲は、おもに「口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック第3版」（2023年発刊）とします。（第2版：2016年9月発刊ではありません）。

口腔顔面痛治療に必要な解剖、生理、薬剤の最新添付文書などはガイドブックに記載がありませんが、診療に不可欠の知識であり出題範囲となります。

2) 症例

提出症例は、一般歯科診断ではなく口腔顔面痛診断学に則った診断がなされたものになります。本学会のセミナー等で学ぶ機会を提供しています。

過去の提出症例において、認定医試験を受けられる先生の中には、知識や記載内容が不十分なケースも認められました。学術大会や講習会での知識のリフレッシュをお願いします。

なお、2024年までの認定医試験とは異なり、2025年4月1日以降の認定医試験では、以下①～③の症例提出を求めますので規定にて詳細を確認し、提出する症例に十分ご注意ください。

- ① 認定医試験に係る認定症例を、30例はリストにて一覧表示とする。
- ② 30例のうち診断実習セミナーと精密触覚機能検査受講後の10症例の詳細を提出する。
- ③ 詳細を記載した10例のうち5例以上は非歯原性歯痛とする。

<参考情報> 2025年4月1日以降に行う試験の条件変更につきましては、2023年6月14日にホームページに掲載された、13日付の「口腔顔面痛認定医を目指している先生方へ」以降、

情報提示を継続して行っております。

以下、学術学会誌に掲載された2023年度第2回定時理事会の議事録に掲載された規定変更比較表もご参照ください。

7 一般社団法人 日本口腔顔面痛学会 専門医・指導医・認定医規程

2023年8月24日改正

第4章 口腔顔面痛認定医（口腔顔面痛認定医の定義）

| 修正前 | 修正後 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第13条</p> <p>(4) 30例の口腔顔面痛症例の一覧を提出すること。症例は非歯原性、歯原性どちらでも良いが、非歯原性・歯原性の鑑別の根拠の記載があること。入会日以前の症例も認められる。症例は痛みに関連した症例とし、基準を満たさない症例を除いた症例数が30症例以下の場合は受験を認めない。また見学症例は5例までとする。</p> | <p>第13条</p> <p>(4) 30例以上の口腔顔面痛症例のリスト一覧表を提出する。その内の10例以上は、診断実習セミナーと精密触覚機能検査受講後の症例とし、非歯原性・歯原性の鑑別の根拠を含めた詳細記載を提出する。詳細記載10例のうち5例以上は非歯原性とする。詳細記載の10例以外は入会日以前の症例も認められる。また、すべての症例は痛みに関連した症例とし、基準を満たさない症例を除いた症例数が30例以下、もしくは詳細記載した症例が10例以下の場合は筆記試験の受験を認めない。見学症例は5例まで含めてよい。見学症例は初診から確定診断までを見学した症例とする。</p> |
| <p>附則 (記載なし)</p> | <p>附則 第13条(4)の規定は、2025年4月1日以後に実施する試験から適用し、同日前の試験は、なお従前の例による。</p> |

※ 申請の際には、必ず学会の規定集にて詳細等を確認してください。

3) 診断セミナー

診断セミナー（2024年以降は「口腔顔面痛臨床推論実習セミナー」として開催）は、口腔顔面痛診断学の初步を学ぶセミナーで、ここで扱われる知識・スキルは口腔顔面痛診断において不可欠なものです。過去に開催されたいずれかの診断実習セミナーを未受講の場合は例外なく試験に出願できませんのでご注意ください。（2025年のセミナーはすでに終了しております。次回は、2026年9月～10月に開催の予定となっております。未受講の先生は、今後発表されるセミナースケジュールをご確認ください。）

4) 精密触覚機能検査講習

精密触覚機能検査は、口腔顔面痛診断において習得しておかなければならない検査の一つです。講習スケジュールは、公表されておりませんので、未受講の方は、試験申し込み期日までに早急に受講を検討してください。未受講の場合は例外なく試験に出願できませんのでご注意ください。詳しくは、精密触覚機能検査研修協議会ホームページにてご確認ください。

5) AHA-BLS

米国心臓協会認定の一次救命処置講習（AHA-BLS プロバイダーコースあるいは AHA-Heart Code® BLS。同じ内容）の受講が求められます。全国で複数の団体が行っています。地方だと開講数が少ないので早めにご検討ください。

院内 BLS コースでも AHA 認定コースであれば当然認められますので主催者にご確認ください。未受講の場合は例外なく試験に出願できませんのでご注意ください。

6) よくある質問として、以下ご参照ください。

【認定医試験について】

- Q 1 : 2名の受験者において、見学症例と担当症例が重複している場合、提出症例としてどのような扱いとなりますか(2名で診ている症例は、1名が担当症例、もう1名が見学症例とすることが可能か)？
- A 1 : 2名で診ている症例をそれぞれが同時に症例として提出することは出来ません。担当症例か見学症例のどちらか（どちらかの担当医）でご提出ください。
- Q 2 : 診断実習セミナーと精密触覚機能検査受講後の10症例の中に見学症例を入れても良いか？
- A 2 : 詳細記載の10症例は、担当症例が望ましい。ただし、条件を満たす他の症例がなかった場合には、見学症例を含めることも認める。
- Q 3 : 過去の試験問題は、いつ頃どのように公開されますか？
- A 3 : 試験が実施された年度内に公表することとする。学会誌に掲載の予定であるが、その年度内に学会誌の発刊がなかった場合には、会員メーリングリスト等、何らかの形で公開することとする。
- Q 4 : 解剖、生理についての、試験勉強に役立つ参考図書はありますか？
- A 4 : 本学会主催のベーシックセミナーや脳学習キャンプなどを参考テキストとする。その他の参考図書として以下をあげる。

痛みの考え方　しくみ・何を・どう効かす
丸山 一男 著
南江堂
2014年4月発刊
ISBN 978-4524263974

イラスト口腔顔面解剖学
松村譲兒 編著 / 島田和幸 編著
中外医学社
2024年10月発行
ISBN 978-4-498-00041-4

ぜんぶわかる脳の事典
坂井建雄 監修 / 久光 正 監修
成美堂出版
2011年8月発行
ISBN 978-4-415-30999-6